

# インタビュー

JARA会員をピックアップしてのインタビュー。

今回は「仕事を始めて8年目＝JARAに入会して8年目」の中村裕子さんに迫ります。

## いつも、自分の心の声に耳を澄ます

――まず、現在のお仕事についてご説明ください。

日建設計のプレゼンテーション部で、主にCG制作とDTPを担当しております。

――DTPも担当されているんですね！CGではアニメーションなども担当していらっしゃるのでしょうか？

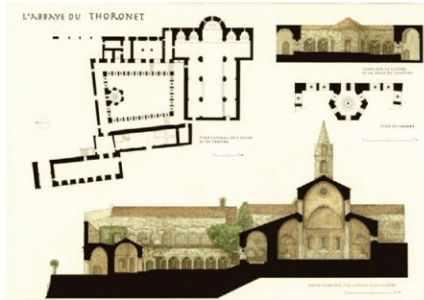
今は、CGとDTPと8：2くらいの割合で担当させて頂いております。アニメーションは、私はまだ作った事はありませんが、音楽を聴くのが好きなので、興味だけはあります。

――DTPも担当されているということで、多数のソフトが使えるということかと思いますが、マシン環境や使用ソフトについて具体的にお教えいただけますか。

windows7を使っています。CGは、3dsmax 2012の64ビットでモデリングして、Vrayでレンダリングをしています。最後はphotoshopCS5でレタッチしています。photoshopは、wacom intuos4のペンタブレットを使って、人や木や陰影を描いたりします。頂いた図面を修正して使う時もありますので、autocadも少し使います。DTPは、adobeのillustratorCS5とindesignCS5です。

――この仕事を選んだ動機やきっかけについてお聞きしたいのですが、業界最大手の建築設計事務所に入社するにいたった経緯で、ポイントとなった事柄などありますか？

私は学生時代、西洋建築史の研究室にいてル・トロネなどの12世紀フランスロマネスク建築の実測調査のお手伝いで、研究室の皆さんと南フランスのプロヴァンスに行ったりしていて、設計はまともにしていなかったのですが、これは、ロットリングと水彩でル・トロネの平面図、立断面図を描いたものです。先生に、ここの石の欠け方が違うと怒られたりしてました。(右上図a) CGを始めたきっかけは、設計の研究室の先輩に誘われて熊野古道センターのコンペ



に参加した事です。なぜか、そのコンペでCG担当を仰せつかりまして。その時に一からCGを教わりました。(下図b)元々絵を描くのが好きだったので、とっても楽しくて自分に向いているなと思いました。その後、またしても別の先輩の誘いで日建設計にCGのアルバイトに行かせて頂きまして。ちょうど、大阪駅ビルのコンペで、皆さん毎日ハードにお仕事されてましたが、夢があって活気があって、素敵な職場だなという印象でした。その後面接をしていただく機会を頂きまして、無事日建設計にお世話になる事ができました。ポイントは、と聞かれますと、運が良かったという事に尽きるとは思いますが、運も実力のうちです…



――これまでに、自分自身の成長を感じた仕事や、印象に残っている仕事、代表作などについて教えてください。

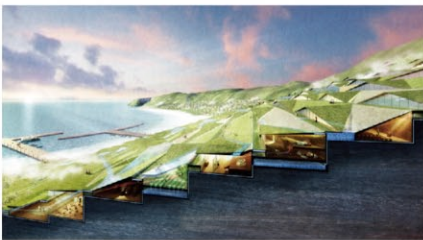
やはり大きなコンペは、比較的得るものが多いと思います。それまでにはない新しい表現に挑戦する事が多いという事と、先輩や同僚と一緒にやるので、必ず何か勉強になります。もちろん、小さな案件でも、新しい発見は常にあります。どんなお仕事も常に悩んでいます。海外案件は、その国の風土も考慮しなければいけないので、知識として勉強になります。中東の案件で、緑色の夕景を要求された時は、かなり苦悩しましたが、先輩や設計の方にたくさんアドバイス頂いて、想像の範囲に留まりますが、自分なりに新しい表現ができました。(下図c)肌を露出した女性は、宗教上の理由で入れてはいけませんが、始めはそれすらも知らずに水着の美女を入れていて、先輩に指摘されて、提出時はブルイに人は入れませんでした。



日本の案件も、もちろんその土地感を出そうとするので学ぶ事はあります。京都のお寺でお庭を見るのが好きなので、これはJARAのコンペですが(事項図d)、隈研吾氏の根津美術館のお庭の表現をするのに、自分なりにアレンジしています。実際は芝生でしたが苔の表現にしています。西芳寺や祇王寺のようなお庭だったらより素敵だなと思ったのでそうしました。隈さんに叱られるかと思いましたが、評価していただけたのでほっとしました。



後、毎年開催される有志メンバーによる社内コンペがありまして、サステナブル建築をテーマにしているのですが、それもあり甲斐があります。何の制約もないので、自分たちの夢を思い描いた通りに表現できますし、その分、己の実力を目の当りにすることにもなります。この作品（下図e）は、私たちが生を受けた“島国”である日本の土地を受け入れ、循環する生態系の一部として地球環境と共生するために、エネルギーを“利用”するという視点を捨て、“恵み”として捉えることを提案の軸として、システム・造形の両面から解こうとしたものです。壮大かつ美しく、自然によりそう“まち”モデルを提案しました。人は、壮大なものに畏怖し、美しいものを愛でるものだと思いますから、“壮大かつ美しい”事がとても重要です。業務の合間を縫って、密に話し合いながら、最後はみんなで一つのイメージを創り上げる醍醐味があります。それに、社会的にも、とっても意義のある行為だと感じています。夢を見るけれど、夢物語では終わらせない気持ちが大切だと思います。



中村さんのように建築に理解のあるレンダラーは、設計者にとって非常に力強いパートナーだと思います。…さて、今回の出品作は海外の案件ですね。（本誌p.20ページ）このようなデザインに携わる事はそう多くはないのと思いますが、エピソードをお聞かせください。

所属は名古屋オフィスですが、時々、東京や大阪の海外案件のお手伝いをさせていただく機会があります。中東やアジアの案件が多いように思います。国によっても、設計チームによっても違うと思いますが、今回は中東のとある都市のマスタープランのコンペで、大阪時代からお世話になっている大谷弘明氏のデザインでした。今回出展した作

品のタイトルは「清浄な影の素中へ」としました。このタイトルは、自分の解釈で改めて言葉にしてみました。設計者とイメージの共有を図る上で、言葉はとても大切な役割を担ってくると思います。伝えられた言葉の意味をきちんと解釈するためにも、自らその言葉の意味を体感している事が大切です。でも実際は、私は中東に訪れた事がないので、空の色や光の見え方など、行って初めて、伝えられた言葉の意味を理解できるのだと思います。



この絵（上図f）は、同じプロジェクトのプラザの夜景ですが、周囲を囲むタワーは、計80棟全て違う図面がありまして、窓や天蓋の装飾に至るまで細かくデザインされています。今回、同期の山崎正登氏がアニメーションを作成したのですが、完成品に流れるコーランを聴いていると、涙が出そうになりました。皆さんの力の結晶だと思います。

80棟の図面！それはスタッフの人数もすごかったでしょうけれど、皆さん徹夜も多かったでしょう！大きなコンペになると生活のリズムが乱れませんか？この業界は“仕事が趣味”の方が多いですから、体調管理も重要になってきますよね。

設計の方はかなり大変だったと思います。若手中心で、人数も少なめでしたので。私はマイペースにやらせて頂いております。徹夜をすると、翌日廃人になってしまいますし、あまり残業はしません。割に軟弱なので、体調管理は日頃から気にしてまして、基本は自炊しています。夜遅くなると分かっている日は、おやつにさつま芋とかバナナを持ってきて会社で食べています。食後のデザートにフルーツも持って来ています。結果、お弁当セットがジャイアントサイズになりますが。とは言うものの、一番大切にしている事は、その時々自分の体の声に耳を澄ます事だと思っています。今日は作りたくないと思えば外食しますし、お酒が飲みたいと思えばほどよく飲みます。そして、疲れたら家に帰って、ゆっくりお風呂につかって寝ます。

ところで御社はBIMも進んでいるまさに業界のトップ企業ですが、CG制作にはどんな影響がありましたか？

専門外ですので詳しい事はよく分かりませんが、名古屋オフィスも、少しずつ実用化しているみたいですね。私たちに直接関わるお話は、「BIMで作ったデータをそのまま頂くと、とにかく重い」らしいという噂は耳にしておりますが、私に限っては、実際にまだBIMのデータを扱った事がないので、まだ何とも申し上げられません。

3Dモデルを作ること自体は設計者が日常的に行っていると思いますが、それによってビジュアライゼーションの専門性の欠如などを危惧することはありますか？

私たちに求められている事は、見た人がほっとする、心を震わす絵を作る事だろうと思います。大阪時代の師匠、芳谷勝彌氏の言葉「パースは建築のお見合い写真」を、いつも心に留めています。それはどんな小さなお打ち合わせ用の資料でも可能な事だと思います。その技術と感性を磨いて、設計者が作るよりも、素敵な絵が作れば、私たちに依頼は来るのではないのでしょうか…

インハウスでの制作の利点は大きいと思いますが、海外の制作会社との連携では、御社ならではのスケールの大きさを感じています。海外と国内での制作それぞれのメリットはなんですか？

私は、一制作担当者ですので、外部の制作会社さんとの連携の仕組みはよく分かりません。制作に集中しております。が、中国の制作会社さんは、とにかく早くて安いようです。うまい・はやい・やすいです。これに立ち向かうには、日本人としての感性を養うしかないのでしょうか。

同じ組織系制作者として興味があることなのですが、大きな企業にいるとキャリアを積むに従って管理職へ移行するのが通例だと思います。中村さんにとってのキャリアモデルとはどんなものなのでしょう。

組織には色々な人がいて、それぞれ違った得意分野で、お互いに補い合いつつ高めあっている点が素晴らしいと思います。日々進歩する技術に私がついて行けているのは、組織に所属しているからです。私は、私の得意分野を研鑽していく必要があり、その日々の積み重ねが、自ずと私の道となって行くのだと思います。一番難しそうなのは、女性として、如何に喜びと遣り甲斐を見出す働き方ができるかですね。それは今もずっと模索中です。笑

最後に一言お願いします。

私は、とても恵まれた環境にいると思います。素晴らしい先輩や同僚に囲まれて、日々学ばせて頂けていることに感謝しています。今は、放っておいてもたくさんの情報が飛び交う世界ですが、自分の心の声に耳を澄ます事を大切にしたいです。自分は思うのか、他人の評価に惑わされないように、常に感性を保って。そしていつも、心を震わす何かに触れて、美しいものを愛でる事ができたなら、如何なる道程も揺るがないものと考えています。どうもありがとうございました。

お忙しいところどうもありがとうございました。

《インタビュー後記》

印象を一言で言うなら「凛とした女性」。何か確固とした意思を感じる目に魅了されてしまいます。すでにファンですがもっとファンになりました。まっすぐな彼女に欠点はないのか？数年後にはちょっと意地悪なインタビューもしてみたいですね。(う)



中村裕子 (京都 実光院にて)

1982年 和歌山に生まれる  
2005年 京都工芸繊維大学 卒業  
現在 株式会社 日建設  
設計部門 (名古屋)



美味しい食事をし、美しい文章を読んで、ぐっすり眠る。時々異文化に触れてドキッと。その度に感じたものを絵にする。人によって違うと思いますが、私は感じた事を絵にしています。(下図g、h)

g:「マリンバグラス」



それは、自分を見つめ、ありのままをさらけ出すように、とても恥ずかしい行為です。それでも続けていくうちに、何か大切な事が見えてきますし、お仕事にも反映できると信じています。

h:「ある圃のタイル」



今、月に一度、滋賀県の琵琶湖の湖西にある、刈谷拓爾氏のアトリエに絵を教わりに行っています。美しく清められたアトリエで先生の好きなバッハの無伴奏ヴァイオリン・ソナタを聴きながら、色んなお話をします。芸術の事、音楽の事、文学の事、建築の事。私の知るべきあらゆる物事は、あの八角錐屋根の可愛らしいアトリエの中にあるような気がします。今度、油絵を始める事になりました。たくさんある画材を選ぶだけでも大変なんですね。これから、油絵を始めるのがとても楽しみです。

\_\_\_\_\_ JARA についてお伺いします。中村さんは大学を卒業してすぐの年にJARAに入会されていますが、動機はなんだったのでしょうか。

当時、大阪オフィスの宴会部長、兼パースの大師匠である芳谷勝瀨氏が、JARAに入るようにお誘いくださいました。右も左も分からない状態だったので、入会するものと思って入りました。当時は、流れのままにという感じでしたが、芳谷さんや、JARA の上野真理さんに憧れていましたので、先輩方に絵の事を教わりたかったです。

\_\_\_\_\_ 真に受けて良いのかわからないけどうれしいです！私は中村さんに影響を受けていますよ。恥ずかしい仕事ぶりを見せられないと思う存在です。中村さんにとってJARAの作品展はどんな存在ですか？

恐縮です…JARA の作品展は、多くの方の目に触れると思います。普段お仕事で作らせていただく作品は、基本的に外部の方の目に触れる事がないので、色んな方の反応を見る事は刺激になりますし、反省や喜びもあります。どんなものでも、作品を生み出したなら、誰かに見てもらう事に意味があるように思います。自分だけで満足する事もあるかもしれませんが、より多くの方に知ってもらって、そこから何かが生まれると素敵だと思います。また、自分の1年間を振り返る、いい機会だと思います。良くも悪くも自分の成長を確認できますし、それを第三者に見てもらうとなると緊張感も入って、継続するにはちょうどいい場だと思います。

\_\_\_\_\_ 私は、来場して下さった設計者から感想や厳しいお言葉をいただくと、次は何を頑張ろうかと考える「種」をいただいたんだと思うんです。出品しても、聞く耳をもっていないとせっかくの種をいただき損ねる。

そうですね、おっしゃる通りですね。厳しい言葉こそ、ありがたいものだと思います。どんな意見でも、人それぞれの価値観を垣間見れるのではとします。何かを発表すれば、きっと何かが聞こえて来ますね。

\_\_\_\_\_ これからチャレンジしてみたい事、今注目している事はなんですか？

目標は常にシンプルかつ一貫しています。それは、心を震わす素敵な絵を作りたいという事です。その為に役立ちそうな事を、その時ある環境の中で、吸収していければ幸せです。趣味とお仕事は繋がっています。もっと言えば、日々の生活は全て繋がっています。日々、季節を感じ、よい音楽を聴いて、